

令和3年度第3回総合開発委員会計画部会 委員発言概要

日時：令和3年8月2日（月）15:30～16:20

場所：Web 会議（事務局：道庁別館庁舎 9階 第2研修室）

【小林委員】

- 前文に関して、新型コロナウイルス感染症の影響が極めて大きいということはあるが、北海道の従来からの課題である、全国よりも10年早く進行している人口減少、少子高齢化についても明記すべき。また、その課題を克服するために、北海道の強みである食と観光が牽引役として期待されるという趣旨の記載を追加して、たたき台5行目の「海外の食や観光の需要を取り込んで、地域の活性化につなげていく」という文につなげていってはどうか。
- たたき台の後段に、この計画が達成された暁には、道民にとってどのような明るい未来・社会となっているのか、ということを知りやすく示すべき。

【高橋副部長】

- 前文に関して、確かに今回の見直しの契機は、新型コロナウイルス感染症であったのだが、やはり、人口減少・少子高齢化という課題は、しっかりと記すべき。
- 惑星・恒星で例えるならば、「輝きつづける北海道」は恒星のイメージであり、自分たちの中で、雇用や産業といった“燃やすもの”をつくり出すというイメージを記載すべき。
- 総合計画のめざす姿が実現したら、どういう世界・地域になっているのかというところを、バックキャストの考え方で具体的に記載すべき。
- 最後の文「一步一步、着実に“かけ橋”を歩んでいきましょう」については修正すべき。代案としては、この計画の一つの大きな流れとして「きょうどう（協働、共同）」という言葉があると思うので、「ともに」とか「みんな一緒に」という言葉を用いて、「かけ橋」を築きながら、または補強しながら、皆でともに歩んでいこうというイメージで書くとよいと思う。
- 国も第8期北海道総合開発計画の見直しを行うことになったが、国との役割分担について考えておく必要がある。国の動きが速い中で、北海道の総合計画をどのように進めていくのかということが考えどころだと思っている。

【森崎委員】

- パブリック・コメントの内容などを踏まえて、計画の中に「地域におけるICT学習機会を創出する」との内容を追加したとの説明が事務局からあった。「だれ一人取り残さない」という趣旨であると理解しているが、高齢者が取り残されてしまうのではないかという懸念がある。
- 前文については、こういったわかりやすい物語を最初に掲げた上で、具体的な内容に入っていくという工夫であり、評価できる。

【山本部会長】

- 前文の「激流にひるむことなく、一步一步、着実にかけ橋を歩む」という表現について、「かけ橋が『ある』」ことが前提になっているが、かけ橋を「かけること」が重要だと思う。道民みんなでかけ橋を「つくる」という文にした方がよいと思う。
- 惑星・恒星に例えた意見にあったように、私たち「自らが輝く」ということを、もう少し強調した方がよい。
- 「未来を具体的に描く」ことは難しいと思うが、「こうなりたい」という姿、そのイメージを伝える必要はあると思う。
- 「地域におけるICT学習機会を創出する」というのは、機会はつくるから勉強しなさいという意味で、自己責任論に近い。「だれ一人取り残さない」というのは、情報側が近づくイメージであり、最低限の生活に必要な情報システムについては、情報リテラシーがなくても使えるようなところを目指すべきだろうと思う。